



東串良町立池之原小学校 学校だより 令和6年度
はばたけ! けやきっ子 1月16日発行

新年おめでとうございます ~素晴らしい一年に~

校長 上葉 智明

I am not concerned that you have fallen - I am concerned that you arise.
 ~ あなたがたがまずいってしまったことに関心はない。そこから立ち上がることに関心があるのだ。 ~

アメリカ合衆国第16代大統領エイブラハム・リンカーンの言葉です。「奴隷解放の父」として史上最も偉大な大統領の一人としてリンカーンは、現在でも国内外から尊敬されています。この言葉は、失敗したとき、くじけそうになるときに、大きな勇気を与えてくれる言葉です。



挫折を力に

1月2~3日にかけて開催された第101回東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)をご覧になった方は多いのではないのでしょうか。その箱根駅伝で、大会新記録で2年連続8回目の総合優勝を果たした青山学院大学を率いる原晋監督をご存じの方も多と思います。原監督は、学生時代は世羅高校・中京大学において陸上競技で活躍し、中国電力に入社後も陸上競技を続けましたが、故障に悩まされ5年後に競技生活を引退しました。引退後は、同社でサラリーマンとして再スタートしてからは、新商品を全社で最も売り上げる等、ビジネスマンとしての能力を開花しました。

中国電力でサラリーマンとして確固たる地位を築いていた原氏に、青山学院大学陸上競技部の監督としてのオファーがあり、2004年に監督に就任しました。原氏の青山学院大学監督就任後、2009年に33年ぶりの箱根駅伝初出場、2015年に箱根駅伝初優勝に導く等、監督就任の20年間で6回の総合優勝を果たす駅伝強豪校に育て上げました。その原監督の数多くの著書の中から『「挫折」というチカラ』(2022年 マガジンハウス新書)を紹介します。

原監督は本著で、挫折と失敗の似通った二つの言葉を全く別なものとして捉え、それぞれ次のように定義しています。

- 挫折 → 自分が精一杯努力したにもかかわらず、コントロールできない外部の要因によって目標が達成できないこと
- 失敗 → 現状に甘んじて行動を起こさない、あるいは何も考えず前と同じことをして、結果が出ないこと

つまり、目標に向かって真剣に、精一杯努力した結果、図らずも目標が達成できなかった時、人は挫折を味わうのです。そして、挫折を経験し乗り越えた時、人は強く大きく成長するのです。まるで、骨折した部位が、骨折前より強くなるように。また、少しのことではへこたれない逞しさや躓き苦しむ人の心をわかる優しさも育むことができるのだと思います。



子供たちが挫折を躓きに終わらせず、乗り越えるために、我々大人がしてあげられることを三つ考えてみました。

- 子供たちが精一杯努力した過程を認めてあげ、子供自身にもその努力を気付かせる。
- 目標を達成できなかった原因、なにが足りなかったかを一緒に考える。
- 子供たちが「なりたい自分」に少しでも近づけるよう、「なりたい自分」への道筋を一緒に考え、励まし続ける。

また、挫折を経験せず社会に出た人間は挑戦することに臆病になるともいいます。成功と失敗の経験値の振れ幅が小さいと、心の柔軟性がなく、肝心な時にポキッと折れてしまうからです。挫折をさせない、失敗を許さない風潮である現代社会だからこそ、池之原小学校の子供たちには、在学中も卒業してからもずっとキャッチフレーズ **はばたけ! けやきっ子** の精神を胸に、失敗や挫折を恐れず何事にも前向きに挑戦していただきたいと思います。

日新公いるはうた

つらしとて恨みかえすな 我れ人に 報い報いて 果てしなき世ぞ

【大意】 相手から仕掛けられたことがどんなにつらくても相手を恨み返してはいけません。次から次へと恨みが続いていき、よくないことである。恨みには徳をもって対処すべきである。憎しみの連鎖を断ち切ることが、平和な世の中への第一歩なのかもしれません。

「誰か」のことじゃない。人権について考えました

前月号でもお知らせしましたが、12月4~10日の人権週間を受けて、本校では12月4~10日を校内人権週間として設定し、子供たちが改めて人権について考えました。

校内人権週間期間中、各学級で人権に関する授業を行い発達の段階に応じて、人権について改めて考える機会を設けました。また、「友達の言葉や行動でうれしかったこと」「友達のいいところ」「みんなのために優しくしてくれている友達」をカードに書いて紹介しあう人権パブリカカードの取組を行いました。

人権パブリカカードを貼った人権の木

校内人権週間の最終日12月10日(火)は、人権擁護員の方々をお招きし、人権教室を行いました。各学級で作成した人権スローガンを発表したり人権に関するDVDを視聴したりした後、人権擁護員の方のお話を聞き人権について考えを深める時間になりました。



人権擁護員の方の講話

今後も、学校教育全般を通して人権教育を推進します。そして、地域・家庭・学校で協力し、自身や互いの人権を大切にす心優しいけやきっ子の育成にあたっていきましょう。

令和7年(2025年)がスタートしました。学校では令和6年度の3学期の始まりです。3学期は他の学期より授業日数は短いですが、今年度のまとめと来年度の準備を行う大切な学期で、令和7年度の0学期ともいえます。お子さんが毎日元気に学校に通うことができるよう、ご家庭での健康管理をよろしくお願いたします。

昨年末から流行しているインフルエンザA型にくわえ年初からインフルエンザB型が流行しつつあるようです。引き続き、手洗いうがい、適切なマスクの着用、部屋の換気等の予防対策の徹底に努めましょう。



レッツビギン? 池之原小特別支援教育コーディネーター わかば学級組担任 木佐貫 陽子 文責
 特別支援教育を通して子どもや保護者の方々と接する中で「愛着」という壁にぶつかることがあります。子どもが健全に育っていくためには、まず、母性性を必要なだけ十分に与えること。そのあと順次、父性性が機能していくことが何より重要です。母親が…父親が…というのではなく、この両面性は、バランスよく働けばいいのではなく、必ず順序よく子どもの心に届かなくてはなりません。

「母性性」とは、家庭の中で子どもや家族を受容、許容、承認する力です。安らぎ、憩い、くつろぎの体験を十分にさせることで、子どもに包み込まれている安定感や見守られているという安心感を実感させるものです。けして甘やかすと言うことではありません。

「父性性」とは、子どもの成長にしたがって、さまざまな規律、約束、義務、努力、緊張と言ったことを教えていきます。約束を怠ったりすれば、叱られると教えるのです。

家庭内でこの「母性性」が豊かに与えられ、「父性性」によりつけられるという両面性が順次機能することが、学校生活・社会生活をスムーズに過ごすためにも必要なのです。

*次号に続きます
 参考文献『はじまりは愛着から』 佐々木 正美 著

とっても楽しかったよ!

12月14日(土)に「おもちゃ祭り」を行いました。2年生が生活科の授業で作ったおもちゃを1年生に遊んでもらう活動です。

2年生は1年生に喜んでもらおうと、工夫して作ったおもちゃの使い方を分かりやすく説明していました。1年生が楽しそうにおもちゃで遊ぶ姿に、2年生もたいへん満足そうでした。1年生は2年生になった際、1年生に楽しんでもらえるよういっぱい工夫してくれることでしょう。

1・2月の主な行事

- | | | |
|----|--------|--|
| 1月 | 15日(水) | 鹿児島学力・学習状況調査(5年生)~16日 |
| | 17日(金) | 小中音楽会(3年生)
東串良中入学説明会(6年生) |
| | 20日(月) | 鹿児島をまるごと味わう学校給食週間~24日 |
| 2月 | 4日(火) | 新1年生入学説明会 |
| | 8日(土) | 土曜授業
メディアコントロール家庭学習
がんばりウィーク~14日 |
| | 14日(金) | 特別支援学級閉級式 |
| | 15日(土) | 町教育推進大会 |
| | 20日(木) | P T A理事会 |
| | 27日(木) | 持久走大会・学級P T A |

